

# ミツバチで生物多様性



豊島区内に社宅を持つ鹿島建設が、その施設内で始めたのは、ニホンミツバチプロジェクト。ミツバチは環境の良い場所でしか生きることができないナイーブな生き物であるため、都市の環境指標に適しています。建設会社として「生物多様性」に配慮したまちづくりにいかすため、また、地域の生態系を守るため、日本在来のニホンミツバチを飼育し、研究を行っています。今回、このプロジェクトを行っている環境本部地球環境室の曾根佑太さんにお話を伺いました。

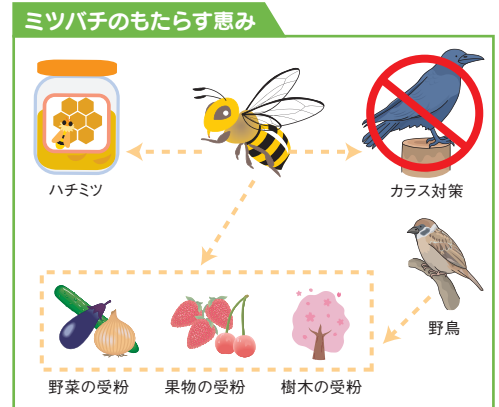


## ミツバチのもたらす恵み

ハチと聞くと「刺す」、「怖い」といったイメージがありますが、実は、ニホンミツバチは、温和な性格なので捕獲されたりしない限り、刺す可能性はほとんどありません。ビルや障害物を避けて上空を飛ぶため、飛んでるミツバチと人間がいきなり出会う可能性は低く、人間との共生が可能なのです。

ミツバチのもたらす恵みは、ハチミツ、ローヤルゼリー、蜜蝋や蜂の子の採取と様々ですが、本プロジェクトでは、特に受粉効果に注目しています。周辺の木々に実がなり、その実を食べる野鳥が集まり、害虫を食べるといった新たな生き物のつながりが生まれる効果です。さらに、黒い個体を攻撃する習性があるため、カラス対策になるともいわれています。

このように都市部であっても、健全な生態系が再生できる効果が期待されています。



## ミツバチがつなぐまち

調査などで得た知識や実績は、「生物多様性」に配慮したまちづくりにいかすほか、子どもたちや地域の皆さまに還元したいと考えています。社宅内の保育施設で、幼児向けの環境教育を実施したり、昨年8月には採れたハチミツで初めて「みつばちカフェ」を開催し、近隣の方たちにも参加していただきました。

このようにミツバチプロジェクトを多くの方に知っていただく機会をつくり、ミツバチによって、生き物だけでなく、まち全体がつながっていくといいなと思います。



熱心に聞き入る幼稚園児たち

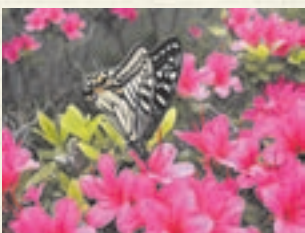
## Column

### いのちのつながり(上)

豊島区では、自然豊かな尾瀬より多くの昆虫や鳥が観察される、と聞いたら信じられますか。

豊島区南大塚で、花に来て蜜を吸い花粉を食べている昆虫や鳥の数を、5年間毎日記録しました。その結果、自然豊かな尾瀬より多くの昆虫や鳥が観察されたのです。

本当です。尾瀬へは花が咲く5月から9月までのべ19日通って、花にきた昆虫の数を調べました。同じ期間に記録された昆虫と鳥は、南大塚では観察1時間あたり28.6匹でしたが、尾瀬ではそれより少ない17.7匹でした。しかも、花から蜜を吸う鳥は尾瀬では観察されず、南大塚では4種類も記録されました。それに、チョウの仲間やスズメガの仲間も尾瀬より種類数が多いのです。



区の花ツツジとアゲハチョウ

何故でしょうか。一つには気候の相違に由来しますが、もう一つ大切な要因は花の密度の違いです。尾瀬では花の咲く場所が季節ごとに変わります。しかし南大塚では、四季絶えることなく花が咲くよう、人々が植え替えなどの手入れをしています。こうして、公園や道路沿いに咲く花々の恵みが、昆虫や鳥を支えているのです。

このように、区立公園の草木や区民が植えた草花が、町中の昆虫や鳥の多様性をまもり「いのちのつながり」の起点になっているのです。(下)ではそのつながりの一端を見ることにします。

文/写真

田中 肇さん (昨年まで南大塚在住)  
日本花粉学会評議員  
「昆虫のあつまる花ハンドブック」  
「花と昆虫がつくる自然」など著書多数

